

2025年5月31日、親子で「水」をテーマに体験して学ぶMIZUBEキャラバン2025シリーズの第1回「友ヶ島 みんなの海ごみクリーン大作戦」を開催しました！

参加者の皆さんは、弊社環境事業協会前から大型バスに乗って出発。今回の参加者は親子10組20名です。

残念ながら、天気は良好なのですが風が強く、友ヶ島へ向かう汽船が出航できず、予備のプランとして予定していた深山地区へ向かいました。



今回講師を務めてくださるのは、和歌山県環境学習アドバイザーの平井研さんと大阪公立大の学生さん3名です。バスの到着後、今回初めて会う参加者の皆様と、学生さんたちが考えてくださったアイスブレイクを行いました。

まずは軽い自己紹介からはじめ、その次は誕生日順に整列するというアイスブレイクを行いました。誕生日はお互いに聞き合わないかわからず、コミュニケーションを取る手法としてはとても良いアイスブレイクとなり、参加者の皆さんは打ち解けることができたようです。

その後は、深山地区の森林に入り深山第一砲台跡へ向かいました。



砲台跡へ向かう前には、平井さんから瀬戸内海国立公園のことについて説明

があり、現在いる深山地区の位置、友ヶ島との位置関係についてレクチャーがありました。



その後、なだらかな坂道を下っていき、深山第一砲台跡へと向かいました。ここは友ヶ島と同じような戦争遺構がそのままの状態に残されている希少な場所です。第2次世界大戦の際に作られた弾薬倉庫ですが、幸か不幸か使われることのないまま役目を終えました。今は、戦争遺構として観光地となっています。



深山第一砲台跡を見学した後は、展望台へと足を運びます。砲台を乗せる予定だった場所から階段で上がると、目の前には行く予定だった友ヶ島が見えます。



晴天にもかかわらず船が出なかったこととして、風が強かったというのもあり

ますが、この友ヶ島（地の島）付近は毎秒 1.5mほどの流れの海流があり、紀淡海峡周辺をぐるぐると回っています。この潮流が影響し、船が出せないこともあるようです。



友ヶ島の特性や、奥にうっすらと見える淡路島・明石海峡大橋などの位置関係を平井さんに教えていただいた後、この良い眺めで昼食をとりました。昼食後は各自、展望台からの良い眺めを楽しんでいました。また、友ヶ島の位置関係などが重要なポイントとなってくるため、よく覚えておいてくださいね、と平井さんから説明がありました。



その後、展望台を下り海岸へと足を運びました。この深山海岸は、友ヶ島と同じように海ごみが集まってきてしまう地区です。ここでは、自分の家（家庭内）で見たことのあるものと同じものを拾うというワークショップを行いました。



ペットボトルはもちろんのこと、大きな発泡スチロールの塊や、炊飯機の釜、中には古いランドセル?のようなものまで漂着していました。

平井さんからは、大阪湾中の海ごみがここ深山地区に流れてくることを教えてもらいました。大阪湾には、海流が時計回りに流れています。そして、紀淡海峡の真ん中にある友ヶ島と、すぐそばの深山にはその海流の影響で流れてくる海ごみが溜まってしまう場所になっていることを学びました。

家庭内でみられるごみが多いということは、このごみたちは家庭から流出しているということ。私たちが海ごみを減らすためにできることは、できるだけ家庭内でごみを減らすことが大切であると、平井さんから学びました。他にも海ごみが増える理由はたくさんありますが、一つ一つ私たちにできる行動を実践していくことで、将来的には海ごみを無くすことにつながるかもしれません。

海ごみのワークショップの後は、バスの停車している駐車場まで戻り、大阪まで戻りました。

今回海ごみについて学びましたが、次回は河川の上流域、源流に近い場所で水や生きものについて学びます！

ご協力いただきました、和歌山県環境学習アドバイザーの平井研さん、ありがとうございました！